

# 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における秋田市の結果について

## 1 調査の目的

全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、子どもの体力が低下している状況にかんがみ、スポーツ庁が全国的な体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の結果を検証し、改善を図ることを目的として実施しているものです。

本市では、調査結果から子どもたちの体力の状況や運動習慣を把握し、一人ひとりの体力や健康に関する指導の改善のために役立てたいと考えています。

## 2 調査対象

小学校5年生2,242名、中学校2年生2,118名

## 3 調査の内容

### <実技に関する調査>

- [小学校8種目]
- ①握力（筋力）
  - ②上体起こし（筋パワー・筋持久力）
  - ③長座体前屈（柔軟性）
  - ④反復横とび（敏捷性）
  - ⑤20mシャトルラン（全身持久力）
  - ⑥50m走（瞬発力・疾走能力）
  - ⑦立ち幅とび（瞬発力・筋パワー・跳躍能力）
  - ⑧ソフトボール投げ（巧緻性・投球能力）

- [中学校8種目]
- ①握力（筋力）
  - ②上体起こし（筋パワー・筋持久力）
  - ③長座体前屈（柔軟性）
  - ④反復横とび（敏捷性）
  - ⑤20mシャトルラン（全身持久力）
  - ⑥持久走（全身持久力 / 男子1,500m、女子1,000m）
  - ⑦50m走（瞬発力・疾走能力）
  - ⑧立ち幅とび（瞬発力・筋パワー・跳躍能力）
  - ⑨ハンドボール投げ（巧緻性・投球能力）

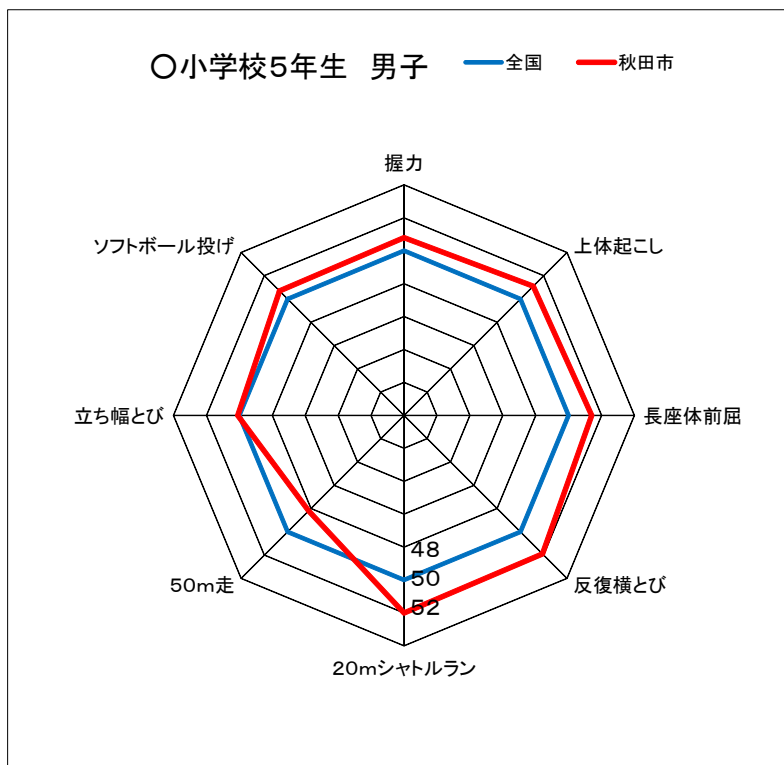
※⑤か⑥のどちらかを選択して実施

### <質問紙調査>

生活習慣や運動習慣等に関する質問紙調査

## 4 本市調査結果の概要

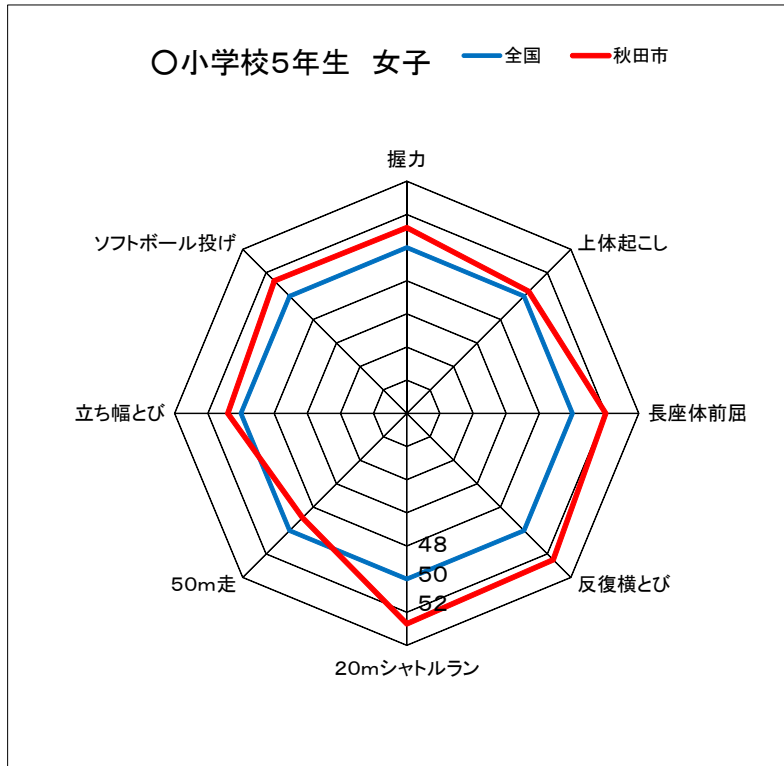
### <実技に関する調査結果>



小学校5年生男子では、8種目中7種目が全国平均を上回っています。

50m走については、全国平均を下回っています。

全身持久力(20mシャトルラン)、敏捷性(反復横とび)に優れている反面、疾走能力(50m走)に課題が残る結果となっています。

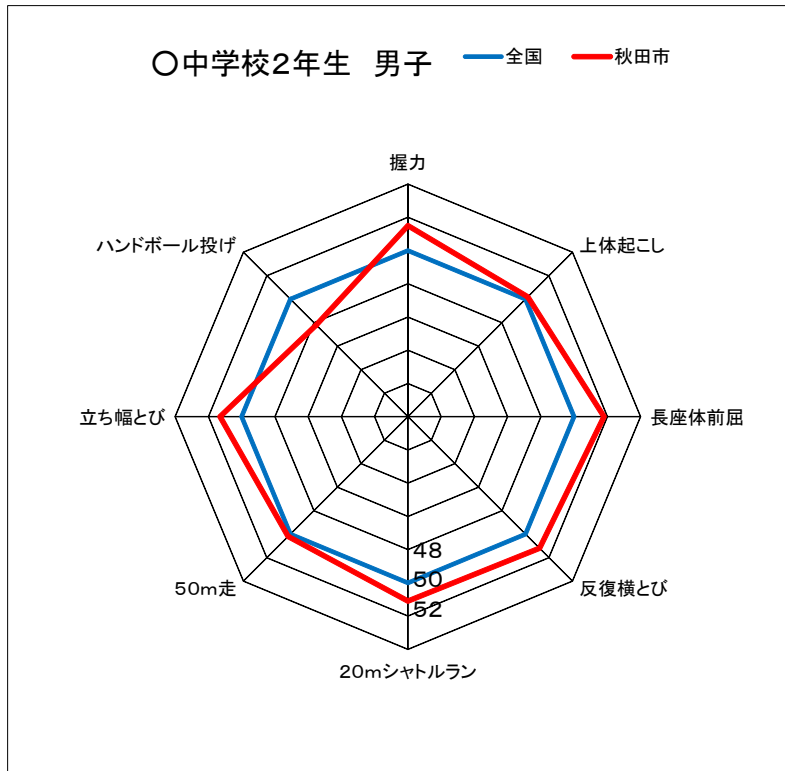


小学校5年生女子では、8種目中7種目が全国平均を上回っています。

50m走については、過去3年間全国平均とほぼ同じでしたが、今年度は下回っています。

全身持久力(20mシャトルラン)、敏捷性(反復横とび)、柔軟性(長座体前屈)に優れています。

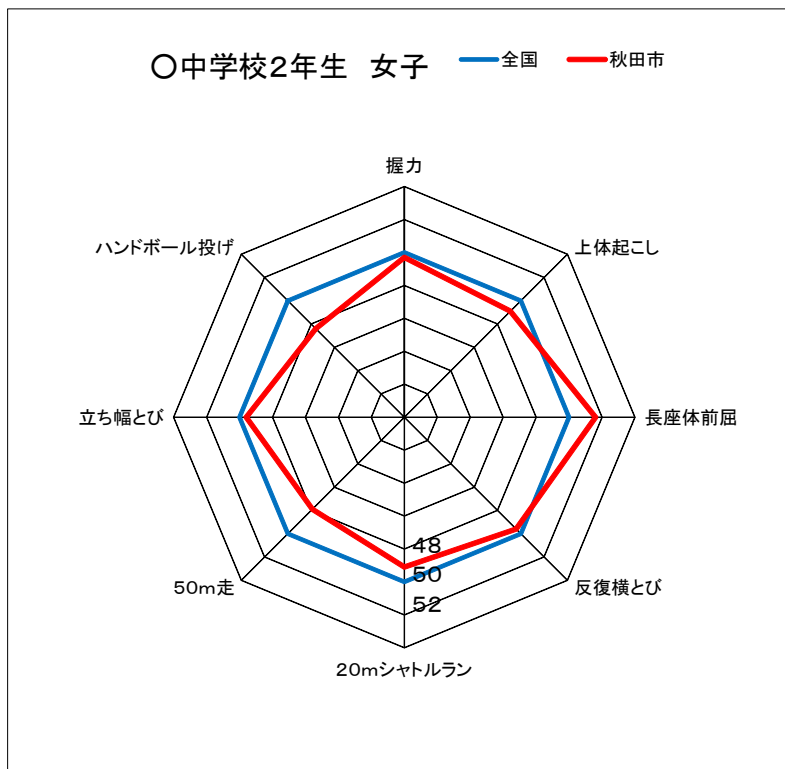
※レーダーチャートは、全国の種目別平均値を50と換算して、全国平均値に対する本市の種目別平均値を相対的位置(T得点)として示したものです。



中学校2年生男子では、8種目中7種目が全国平均を上回っています。

ハンドボール投げについては、全国平均を下回る状況が続いています。

柔軟性（長座体前屈）、筋力（握力）に優れている反面、投球能力（ハンドボール投げ）に課題が残る結果となっています。



中学校2年生女子では、8種目中1種目が全国平均を上回っています。

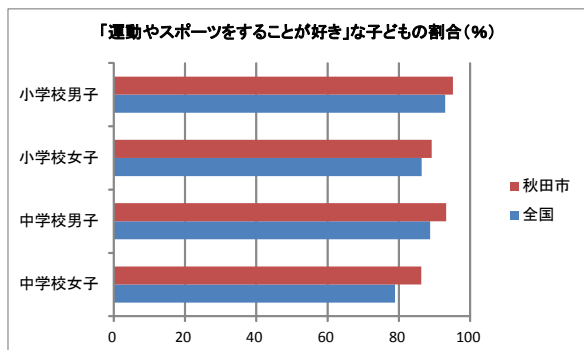
50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げについては、全国平均を下回る状況が続いています。

柔軟性（長座体前屈）に優れている反面、投球能力（ハンドボール投げ）、疾走能力（50m走）に課題が残る結果となっています。

※レーダーチャートは、全国の種目別平均値を50と換算して、全国平均値に対する本市の種目別平均値を相対的位置（T得点）として示したものです。

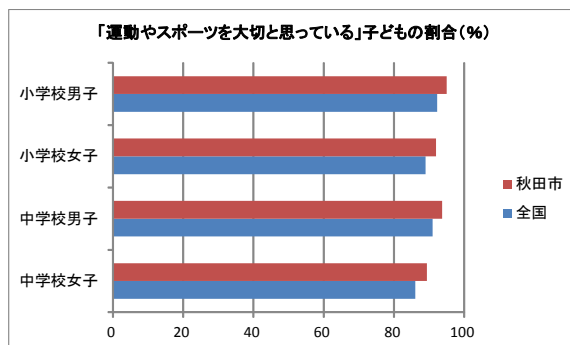
## <質問紙調査結果>

### 『運動・スポーツに関する意識について』



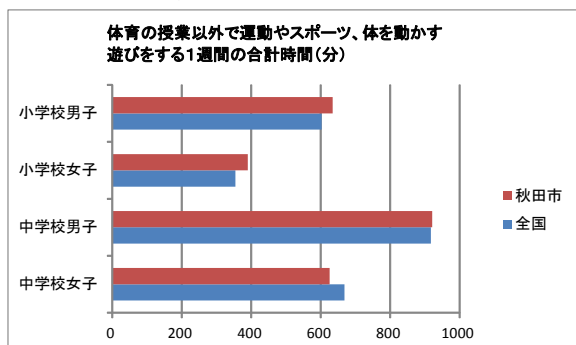
「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答した割合は、小学校男女、中学校男女共に85%以上で、いずれも全国平均を上回っています。

特に、中学校女子は、全国平均を7.4ポイント上回っています。



「運動やスポーツは大切・やや大切」と回答した子どもの割合は、小学校男女、中学校男女共に85%以上で、いずれも全国平均を上回っています。

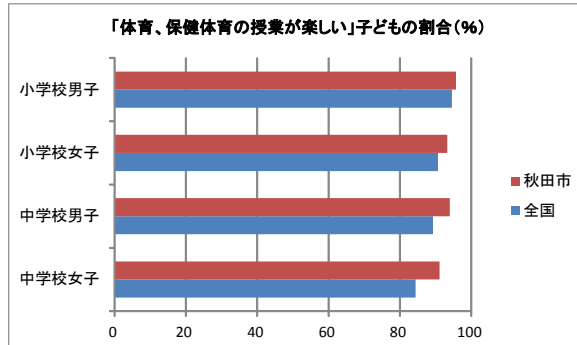
### 『運動習慣について』



「体育の授業以外で運動やスポーツ、体を動かす遊びをする1週間の合計時間」については、小学校男女・中学校男子は全国平均を上回っています。

しかし、中学校女子は626分で全国平均を43分下回っています。

### 『体育（保健体育）の授業について』



「体育（保健体育）の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した割合は、小学校男女、中学校男女共に90%以上で、いずれも全国平均を上回っています。

特に、中学校女子は全国平均を6.7ポイント上回っています。

## 5 今後の取組

### <学校教育における取組>

#### (1) 実技調査の結果を踏まえて

##### ①小学生

- ・各校の実情に応じて、業間運動を推進したり、外遊びを推奨したりするなど、子どもが遊びを通して運動に親しむ機会の充実に努めます。
- ・課題となっている疾走能力の向上のために、ラダーやミニハードルを用いたり、ジグザグ走やスキップ走を準備運動に取り入れたりするなど、指導の工夫を図ります。

##### ②中学生

- ・子どもが主体となる体育的行事を工夫し、進んで運動やスポーツに取り組むことができるよう努めます。
- ・課題となっている投球能力の向上のために、球技種目の準備運動時にキャッチボールなど、ボールを投げる運動を意図的に取り入れ、投球動作に慣れる機会の充実に努めます。

#### (2) 質問紙調査の結果を踏まえて

体育・保健体育の授業が楽しい、体育・保健体育の授業で体を十分に動かしっていると回答した子どもは、小中共に90%を超えています。今後も、運動への意欲が高まる授業を工夫しながら、小学校での一人ひとりの運動時間を中学校でも引き続き確保できることを重視し、指導の充実に努めます。

### <家庭・地域との連携した取組>

健康でいるために運動を行うことが大切だと考えている子どもは、小中共に97%を超えています。また、授業以外でも運動やスポーツをする時間を持ちたいと思っている子どもは全国平均を4～7ポイント上回っています。本調査の情報を家庭と共有し、家の人から運動やスポーツを積極的に行うことを働きかけてもらったり、家庭でできる運動を推奨したりするなど、子どもが日常的に運動する習慣を身に付けることができるよう、家庭との連携に努めます。